

令和6（2024）年度 家庭教育支援プログラム指導者研修④ 実施報告

実施日：令和6（2024）年8月21日（水）

○ グループワーク「家庭教育支援プログラムファシリテーター演習①」

総合教育センター職員
教育事務所ふれあい学習課職員

【午前の演習】

これまでの研修で学んだことを生かしながら、「親学習プログラム」の再構成を行いました。ねらいに迫るための効果的なプログラムの展開やワークの内容、時間配分、役割分担などについてグループで検討しました。一つの活動で複数の効果が出るような導入部の自己紹介やアイスブレイクを工夫したり、効果的にファシリテートできるような言葉かけを考えたりしていました。また、ワークシートや提示資料など必要な準備物についても検討し、よりよいプログラムとなるよう、熱心に協議を行いました。

受講者は、教育事務所の担当者からの助言も参考にしながら、相手の実情に合わせたプログラムの再構成について理解を深めました。



【午後の演習】

グループワークで作成したプログラム展開案をもとに、班のメンバーで役割分担をし、プログラムの演習を行いました。班ごとに参加者役とファシリテーター役を交互に体験し、ファシリテーターとしての言葉かけ、プログラムの進め方、ワークでの参加者との距離感など、各班ともこれまでの学びを生かした演習となりました。

プログラム演習後は、参加者役となった班はよかった点等をファシリテーター班に伝え、ファシリテーター班は自分たちの進行について振り返りを行いました。

演習を通して、参加者が学習の目標を達成するための言葉かけやサポートの仕方がよく分かったようです。



☆ 受講者の声（アンケートから）

- ・ファシリテートするためには、準備が大切であること、チームワークが大切であることが分かりました。仲間と意見を出し合い、尊重しながら協力することの大切さが分かりました。相手（参加者）の立場に立って、どのようなプログラムなら、楽しみながら気づきを得られるかを考え、自身が行うセミナーに生かしていきたいです。
- ・ファシリテーションをするに当たって、語尾など言葉を選択することの大切さを学びました。中立の立場の言葉選びが大切だと気付きました。話を引き出す役割であることを意識して、参加者が自分の意見を言いやすくなるようにしたいです。
- ・事前にこれまでの研修を振り返ってから、本日の研修に臨むことができました。前回のプログラムを確認して改善したり、実際にファシリテートしたりして、プログラムを行う上での手順を学ぶことができました。
- ・実際に行ってみると、予定していたものとは進み方が異なることがありました。臨機応変な対応ができるよう、いろいろなパターンを予想しておきたいです。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp